

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102156		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	くまもとケアセンターそよ風		
所在地	熊本市東区山ノ内3-9-27		
自己評価作成日	2023年2月6日	評価結果市町村受理日	令和5年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様の皆様が今まで歩んで来られた人生や関わった人達との繋がりを大切にしています。ご家族様や医療機関と連携・協力しながら、ご入居者様の安心安全を第一に、楽しく毎日を過ごして頂ける様、職員一同努力しております。
地域との連携としましては、校区内の事業所間で包括を中心に連絡会を立ち上げ、定期的な会議を行い情報共有や行事の計画等を行っております。
また、地域行事への参加を行い、利用者様、他事業所様との繋がりを深めるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設からの経年により入居者の入れ替りという状況もあるが、最高齢100歳2名、平均年齢91歳という高齢化及びコロナ禍という困難な状況に、和やかな生活が一番であるとして職員一同が心一つに真摯にケアに努め、ホーム生活を自宅(我が家)としての概念で過してもらえるように自由な生活環境を作っている。そよ風便りや運営推進会議議事録の活用は、訪問がままならない家族への不安軽減の一環としている。職員の意見を基にした部署会議や身体拘束虐待検討会の毎月の開催、パワハラやハラスメント等チェックシートによる把握等意見の言える働きやすい環境を整えている。コロナ禍で地域との関係性が希薄になりつつあり、社会資源の豊かな場所という立地を今後も生かしながら、これまで築き上げてきた地域の中での生活の再始動に取り組まれることと期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を職員が把握し、心に留める事が出来るよう、目に入り易い位置に提示し共有化している。	2階がグループホームであるが、1階にホーム専用の玄関を設け、玄関及びユニット間に掲示することで啓発や、職員は確認してケアに入る事を一日のスタートとしている。ホーム生活を自宅という概念で過してもらえよう心掛けており、新聞を読んで過す入居者や洗濯物たたみ等自由に過す環境を作っている。	開設当初からの理念は職員には浸透していると思われるが、地域に根ざすホームとして、全職員で再確認されることが望まれる。入居者のケアに直結できるようなグループホーム独自の月目標や年間目標等を全員で検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加を行い地域との触れ合う機会を設けられるよう工夫している。 地域の事業所の会議などにも参加し地域行事の計画などを行っている。	立地的に社会資源が豊富な場所にあるが、コロナ禍により地域との交流は難しい状況にはあるが、自治会に加入し回覧板により行事等をリサーチしている。管理者は東区事業所で作る「糸でんわ会」への参加を交流の一環としているが、入居者が地域へ出る機会は少ない状況である。	コロナ感染の状況を見ながら、まずはユニット同士の交流からスタートいただき、徐々に地域住民との交流について検討頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防について意見交換を行っている。 また、情報の発信や話題の提供等を実施していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議は開催できなかったが委員の皆様、ご家族の皆様から貴重なご意見、ご提案を頂き職員間で共有している。 また、利用者様状況、事故報告等を報告し意見を頂いている。	感染防止として書面での開催として、議題として入居者状況、ヒヤリハット・事故報告、行事報告及びアンケート(毎回アンケートにより意見や提案等を収集)結果等を記し、委員や家族に配布し、毎回のアンケートでの意見等をサービスに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へ事故や人員配置についての相談や、消防署への勉強会用資料等の相談を行い、適正なサービス提供の為に指導を頂いている。	行政には事故報告や変更届(介護計画担当者の変更等)郵送やメールでのやり取りの他、コロナ感染対策等もメールにて把握している。介護保険更新を代行し、訪問調査に立ち会い情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを基に、実施が必要と思われるケースが発生した時には、出来る限り拘束の必要ない計画を福祉用具業者と相談したりしながら、代替え案を採用する様努めている。	身体拘束・虐待廃止検討会による資料の回覧により研修としている。部署間の行き来や、職員同士が注意喚起できる環境を築き、目線を合わせたケア・職員が笑顔と活気あるホーム・優しい対応等を良いケア、悪いケアとしては適当な返事や声が大きいとして声のトーンに注意する事が職員から挙げる等振り返る機会を作っている。新規入職者にはWEBによる研修する体制とし、転倒予防としての足元センサー使用には家族に説明し了承を得て、プランに組み入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の項目に盛り込まれており、職員が再確認する機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方と関わりをもっておられる司法書士の方とのやり取りの中で、制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分な説明を個別に時間を設けて行うのは勿論、ご本人様やご家族様の要望やご意見を聞くことで、その後のケアにもつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には気軽にご要望やご意見を頂ける様な雰囲気作りに努めている。また、ご意見箱の設置、職員用に苦情相談ノートを設置し、情報の共有化に努めている。運営推進会議の議事録送付の際、アンケートを同封している。	運営推進会議時のアンケートや家族との電話で要望等を収集している。食事量の減少に家族のからおやつの差し入れ等協力的である。家族への情報発信源として毎月の「そよ風便り」や運営推進会議の資料配布が訪問もままならない家族の不安軽減の一環として生かされている。	3月には花見会が企画されており、家族にも参加を依頼すること等検討頂きたい。まだまだコロナ感染対策も必要かとは思われるものの、家族と外で対面出来る機会として大いに期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議、全体会議の中で意見交換の場を設けている。	全体会議の中でヒヤリハットや事故、クレームなどを開示することで共有化を図り、職員から出された意見等を課題としてセンター長参加による部署会議で検討する体制としている。また、パワハラ予防チェックシート及びハラスメントチェックシートにより振り返り、職員からの意見として全職員が入居者個別の担当を行う事が上がる等職員が意見を出す環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長との面談や職場環境を整える為の設備点検や補修を行っている。また、日々の会話の中から管理者は職員の気持ちをくみ取れる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修、社内研修に参加を指名して参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域会議の出席を積極的に行い、意見交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス実施前に必ずご本人様やご家族様と面談(実態調査)を行い、細かい要望や特性の把握に努め、介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス実施前にご家族様の困っている事や不安に思っている事を傾聴し、施設として協力できる事を誇張せず伝えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、認知症型共同生活介護についてご説明させて頂き、ご本人様、ご家族様の思いも大事にしながら、他のサービス利用が望ましいと思われる場合はご提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの人生を大事にしながら、入居者様の方にも出来る所は手伝って頂く事で活動的に生き生きと楽しい生活を送っていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、報告や相談を行い情報を共有する事によって互いに誤解する事なくご本人を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の要望等をご家族に相談を行いこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	家族の面会や、携帯を持ち込み家族や友人と連絡を取り合う入居者、ライン電話での家族との対面等を支援しているが、コロナ禍にあり馴染みの場所への支援は難しい状況にある。新聞を読んで過す方や、手仕事として新聞折りや箱作り等今できる事を支援している。	コロナ感染症の中では馴染みの場所への外出は難しい状況と思われる。コロナ感染症の今後の状況によっては、馴染みの場所への支援が出来ないか、家族との話し合いや協力依頼等を検討頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が上手な入居者様の方にも協力して頂きながら、職員が仲介等を援助しレクリエーション等を行い皆で楽しく過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院への転居や転院の際は、職員がお見舞いや面会に行くことでその関係が途切れないう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意思を優先した生活を送って頂けるよう、いつでも相談に乗れるような雰囲気作りに努めている。また、日々の会話やご家族様からの情報を頂きながら、困難な場合は職員で検討している。	入居者は自分の意見を出される方もあるものの、自分からの申し出は少なく、ホームから家族への連絡や家族からの情報を得ながら、本人本位になるよう努めている。職員から必要な物が無いかな等入居者に声を掛け思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居受け入れ前の面談時や入居された後にご本人様やご家族様にお尋ねしながら状況把握に努めている。また、面談等を介護記録に残し、職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様がこれまでにされてきた生活のリズムを大事にし、時には新しい試みも提案しながら最良の環境を作れるよう努めている。また、気付いた点は記録に残し、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は職員間での話し合いを行っている。また、ご本人様やご家族様とも日頃のやり取りの中で、思いを聞かせて頂きながら、ご本人様の気持ちが反映されたプランの作成に努めている。	入居者本人及び家族の意向をもとに、健康状態の維持に向けたプランが作成されている。短期目標6ヶ月毎として評価によりプランの継続可否を見極め、区分変更や更新時に新たなプランを作成している。訪問マッサージの検討等専門的な部分もプランに組み入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画以外の内容も記録に残し、細かい発見や工夫をするのに役立っている。また申し送りや会議の中で職員間の情報共有を行い入居者様の支援に役立てよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切に、実施可能な部分に関しては実施している。また、何らかの障害により実施困難の場合はまずどうすれば実施可能かを検討し、出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等へ参加し、繋がりを深めるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は施設の連携医に限らず、個々の主治医と連携が取れるよう努めている。また、症状によってはご本人様、ご家族様と相談しながら専門医への受診を行っている。	殆どの方が協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療が行われている。希望の医療機関については家族が受診対応し報告を受けており、今後は職員も一度同行し、医師にホームでの様子を伝え更に共有を図っていきたいとしている。緊急時はホームで対応しており、これまで職員の早めの気づきから大事に至らなかった例が聞かれた。歯科は希望者に協力歯科医による口腔ケアや治療が訪問で行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時のみでなく、少し気になる時等もいつでも相談出来るような関係作りに努めている。また、かかりつけ医ごとに連絡先が解りやすいよう相談先電話番号等の掲示を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際は直ぐに入院先の医師や看護師に、日常生活動作や既往歴等の情報提供を行っている。 また、入院中にもお見舞いや電話にて状況確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化においては、ご家族様や主治医とよく話し合い、助言や指示を頂きながら対応を検討している。	入居時に重度化・終末期支援を行うことを伝え、どこまでの対応を希望されるかなど聞き取っている。入居後そのような状態になった時点で改めて意向を確認し、継続した医療が必要となれば対応が難しいことを伝えている。	重度化や終末期支援に関する研修会は実施されておらず、今後は職員の意向や現状に応じた研修会の開催が必要と思われる。取組に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応として、管理者、訪問看護ステーション、ご家族様への連絡をスムーズに行えるよう職員へ周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い避難できる方法を全職員が身につけるように努めている。 又、自治会にも加入し、地域との協力体制を築いている。	今年度は火災訓練として1回目を昼間で、2回目を夜間想定で実施している。自然災害の対応などについては、マニュアルの一つとして会議や勉強会資料に綴じ、共有を図っている。防災訓練の実施を自治会長等へ報告はされているが、地域との協力体制については、今後の課題としている。コンセントの埃などホーム内の安全チェックは職員が行い、建物周辺の確認は施設ドライバーが行っている。	食備蓄は厨房が担当し、食料以外もリストをもとに確保されており、今後は職員も備蓄の種類や場所など共有が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけご本人様の傍らで声掛けを行い、排泄等の確認は外に漏れないよう配慮している。また、職員間で気になった言葉等は注意し合う様心がけている。	入居者への声掛けはできる限り傍らで行い、トイレに誘導して便器に座られた後は、戸の外に出て待つなどプライバシーに配慮し、呼称は苗字や下の名前など希望も聞きながら対応している。理美容は訪問で対応しているが、コロナ禍にあり年末の要望に応える事が出来ず、2月に入り実施されている。保湿剤や化粧品を使用される方については、好みや使い慣れた品もあり、家族による購入も行われている。	入浴支援など同性介助については、家族の意向などを確認することも必要と思われる。取組に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示しやすいよう、職員は目配り気配りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突発的な希望にも出来るだけ対応出来るよう、職員は柔軟な業務分担の振り分けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から入居者様の身だしなみには気を配っているが、誕生日等特別な日は特にご家族様にも相談しながら、その方らしいおしゃれができるよう援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食等、季節感を感じて頂けるよう配慮している。 また、入居者様にも小さな作業を可能な限り手伝って頂いている。	現在、朝食と日曜の3食は外注による調理済みの食事を準備し、昼・夕食は施設内厨房で作られている。個々に応じた食事の量や形態とし、車いす利用者もできる限り椅子に移乗して摂ってもらっている。入居者が献立への希望を出したり、調理に関わる機会は無いが、お盆拭きなどできる事で食への関わりを持てるようにしている。	現在、主食や副菜の調理はホームで行われていない事から、入居者の楽しみになるようクッキングの日を設ける等の取組も良いと思われる。検食簿の記入については、入居者の代弁者として今後活かせるようなコメントに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態にあった食事量や食事の形態に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回の訪問歯科による口腔ケア指導の実施、また、毎日の義歯洗浄、うがい等を行って口腔内清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンの把握に努め、オムツ使用を出来るだけ抑えていくようにしている。	殆どの方がリハビリパンツにパットを併用されているが、布パンツの使用や、退院後職員の支援により、リハビリパンツから布パンツに変わられた方もおられる。トイレはユニット内に3か所設けられ、日々の掃除や汚れに気づいた際はその都度洗浄し、清潔に使用できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整、水分強化等をそれぞれにあつた形で行い、訪問看護ステーション等に相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴の声掛けは行うが、希望されない時は無理には実施せず、翌日等に入つて頂くようにしている。	入浴は毎日準備を行い、午前中を基本に支援しており、週2~3回入られている。身体状況からシャワー浴が中心の方には、湯冷めなどないよう配慮している。個浴の湯は毎回入れ替え、好みの湯温で楽しんでもらい、長湯の方には職員が声掛けをしながら体調を崩されないようにしている。拒否がある方には時間をずらしたり、翌日に変更している。時には入浴剤を使用しており、香りや色を楽しまれている。シャンプー類はホームで備えているが、好みの品を準備される方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や夜間の睡眠時間をふまえて静養対応を検討したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更等は確実に申し送るようにしている。また、個別のファイルに薬剤情報も整備、保管し確認しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感を味わうための行事を毎月計画、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で全体での外出行事等ができなかったが、今後、コロナの状況によりご家族様にご協力を頂いて外出が出来るように支援に努めたい。	コロナ感染症や職員配置の面から、地域資源(公園やホームセンターなど)の活用や、ベランダ(屋上)での日光浴などが難しくなっている現状である。また、入居者の外出への希望はあまりあがらず、家族との受診が外出の機会になっている。桜の開花時期には家族にも参加を呼びかけ花見が予定されており、職員も久しぶりの外出企画を楽しみにされている。	立地的に外を眺めながら季節を感じる事は難しく、今後はビデオやYouTubeなどを利用して外出気分を味わう取組も良いと思われ、検討頂きたい。外出したいとの思いを引き出ししながら、出来る時期には外出を支援頂きたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に職員が行い、収支表等でご家族様にご報告している。外出時には実際にご自分で支払を出来るよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様にご了解を頂き、外からかかってきた友人の方からの電話に実際に出ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前の名札の壁、ユニット間ホールには季節に応じた装飾をしている。	建物2階に配置されたユニットは熊本の街中の通り(上通り・下通り)が名付けられている。近隣への配慮からレースのカーテンのみは使用しながらの活動となることも多いようである。日中はリビングでレクリエーションや新聞を読む方、新聞を使ってゴミ箱折り、洗濯物たたみなど個々のできる事や楽しみごとの時間が持たれている。席の配置は身体状況や相性などを考慮して決定しており、ソファも置かれているが、座られる方は固定されているようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームでの配席には注意し、いつでもくつろいでいただけるよう、ソファ等を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様の愛用品等を持ち込んで頂き、その方らしい生活が出来るよう努め、ご家族様にもお願いしている。	居室の入り口には季節の飾りつけが施されている。入居時に必要な物品について書面で説明している。衣類や日用品をはじめ、携帯や家族の写真、仏壇を持ち込み手を合わせ方もおられるようである。殆どの方がテレビを置き、時代劇など好きな番組を見られている。コロナ禍にあり衣替えは職員が中心に行い、不足などがあれば家族へ報告している。	面会を控えている家族にとって、居室内の様子は気になる点と思われる。掃除や換気、引き出しの整頓など職員の取組を伝える事で家族の安心につながると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時には転倒に注意し、廊下には障害物を置かないよう心がけている。また、トイレの場所などは掲示を行い入居者様が混乱されないよう努めている。		